

2016年度（2017年3月期） 通期 決算説明会

2017年 4月 28日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

- 2016年度 通期決算
 - 2017年度 通期業績予想
 - 中期経営計画の進捗
-
- 2016年度 第4四半期決算詳細
 - 2017年度 主要経営指標
 - 株主還元

- 2016年度 通期決算
 - 2017年度 通期業績予想
 - 中期経営計画の進捗
-
- 2016年度 第4四半期決算詳細
 - 2017年度 主要経営指標
 - 株主還元

2016年度 決算ハイライト

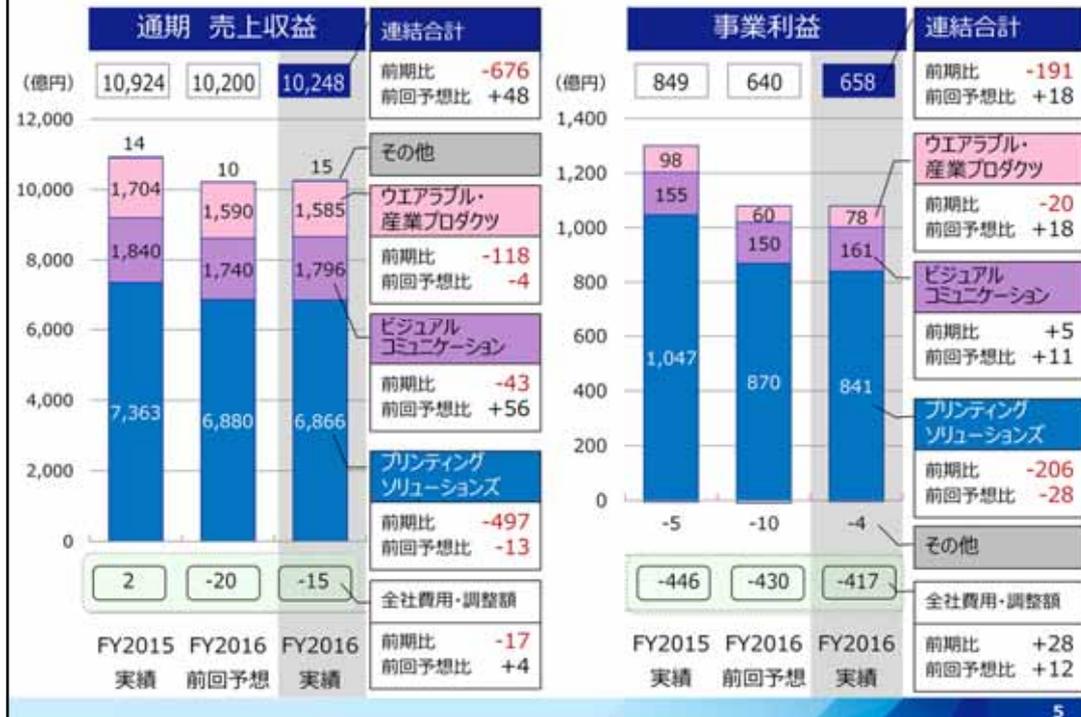
EPSON
EXCEED YOUR VISION

(億円)	2015年度		2016年度				前期 実績比	1/31 予想比	
	実績	%	1/31予想	%	実績	%			
売上収益	10,924	-	10,200	-	10,248	-	-676 -6.2%	+48 +0.5%	
事業利益	849	7.8%	640	6.3%	658	6.4%	-191 -22.5%	+18 +2.8%	
営業利益	940	8.6%	640	6.3%	678	6.6%	-261 -27.8%	+38 +6.1%	
税引前利益	915	8.4%	630	6.2%	674	6.6%	-240 -26.3%	+44 +7.1%	
当期利益	460	4.2%	480	4.7%	484	4.7%	+23 +5.1%	+4 +0.9%	
EPS*	127.94 円		136.28 円		136.82 円		為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
換算レート	USD	120.14 円	107.00 円		108.38 円		USD	△346	+62
	EUR	132.58 円	117.00 円		118.79 円		EUR	△193	△136
							その他通貨	△422	△163
							合計	△962	△237

* 基本的1株当たりの当期利益

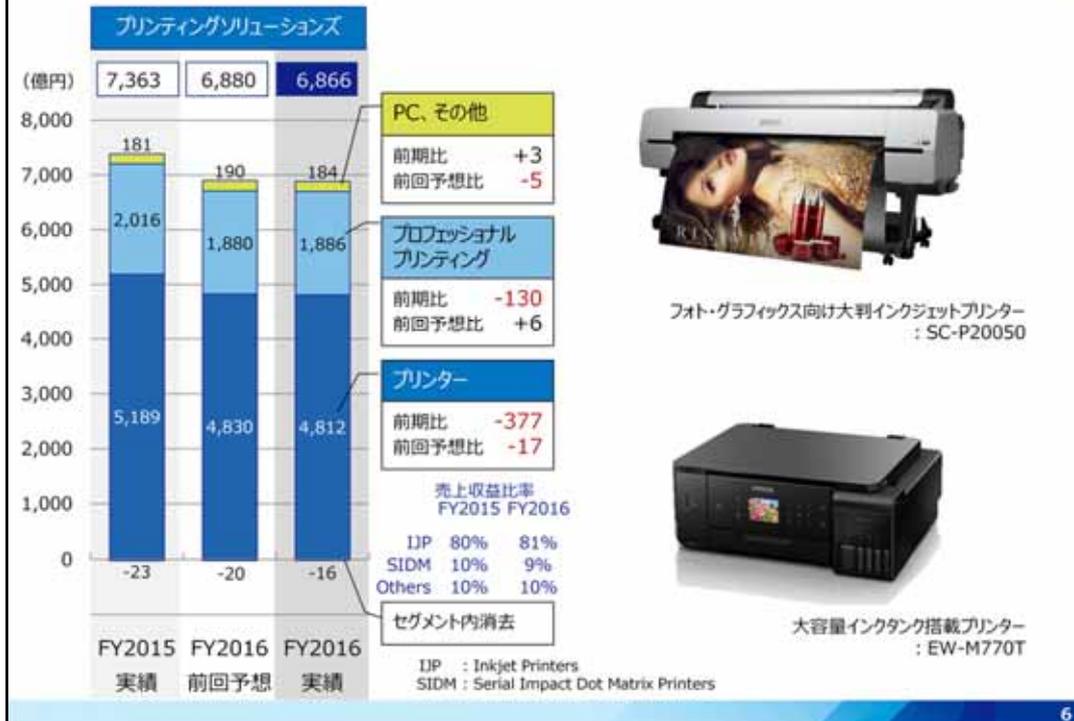
- 始めに、2016年度 通期決算についてご説明します。
- 売上収益は、前期に対し 676億円 減収の 1兆248億円、事業利益は、191億円 減益の 658億円、当期利益は、23億円 増益の 484億円 となりました。
- 2016年度は、為替の円高により、売上収益で 962億円、事業利益で 237億円 のマイナス影響を受けました。
- したがって、同一為替前提では、前期に対し、売上収益は 286億円、事業利益は 45億円上回るようになります。
- なお、1月31日に開示した前回予想に対しては、事業別に若干の強弱はあるものの、連結合計では概ね予想通りの結果だったことに加え、為替が予想の前提に対して円安で推移した効果もあり、予想を上回りました。

2016年度 実績 ▶ 事業セグメント別



▶ こちらは、事業セグメント別の売上収益と事業利益です。

2016年度 実績 ▶ 事業別売上収益



▶ こちらは、プリンティングソリューションズの各事業の売上収益 内訳です。

2016年度 実績 ▶ 事業別売上収益



- こちらは、ビジュアルコミュニケーションとウェアラブル・産業プロダクツの各事業の売上収益 内訳です。

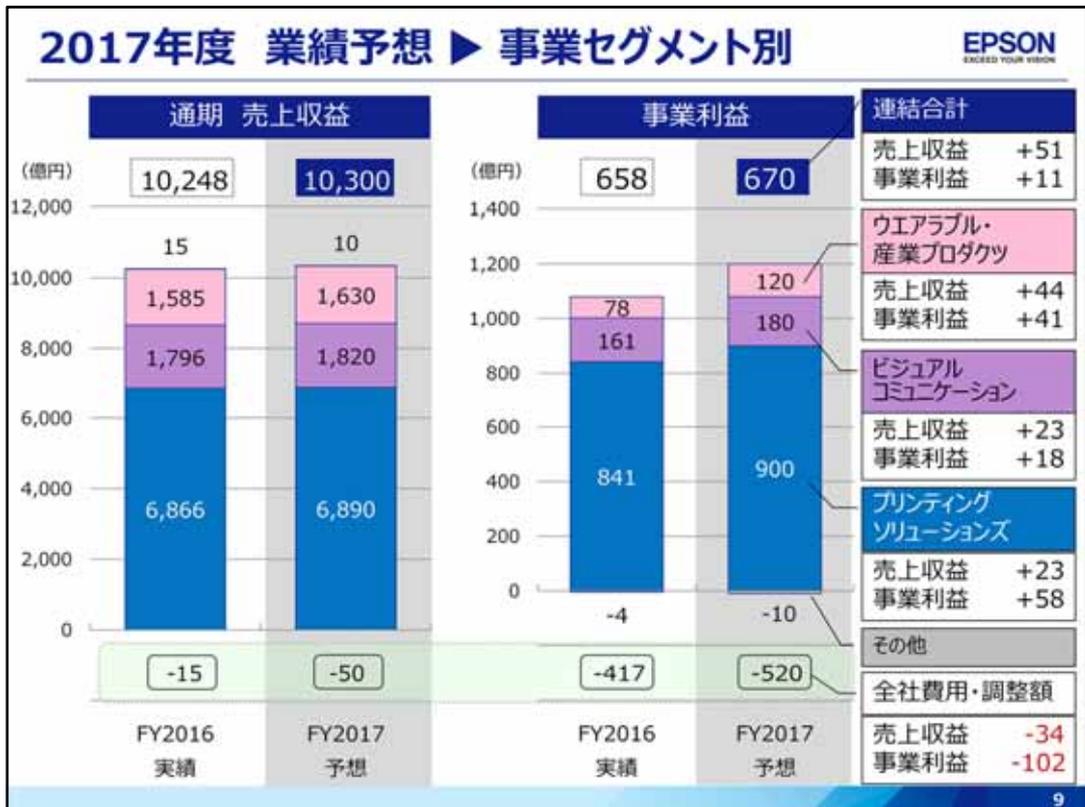
2017年度 業績予想

(億円)	2016年度		2017年度		増減額	増減率
	通期実績	%	通期予想	%		
売上収益	10,248	-	10,300	-	+51	+0.5%
事業利益	658	6.4%	670	6.5%	+11	+1.8%
営業利益	678	6.6%	640	6.2%	-38	-5.7%
税引前利益	674	6.6%	640	6.2%	-34	-5.1%
当期利益	484	4.7%	490	4.8%	+5	+1.2%
EPS*	136.82 円		139.12 円			
換算 レート	USD	108.38 円	105.00 円	為替感応度(年間)		
		118.79 円	110.00 円	1円の円高影響額(億円)		
			USD	△30	+4	
			EUR	△15	△10	
				1%の円高影響額(億円)		
				その他通貨合計	△28	△11

* 基本的1株当たり当期利益

8

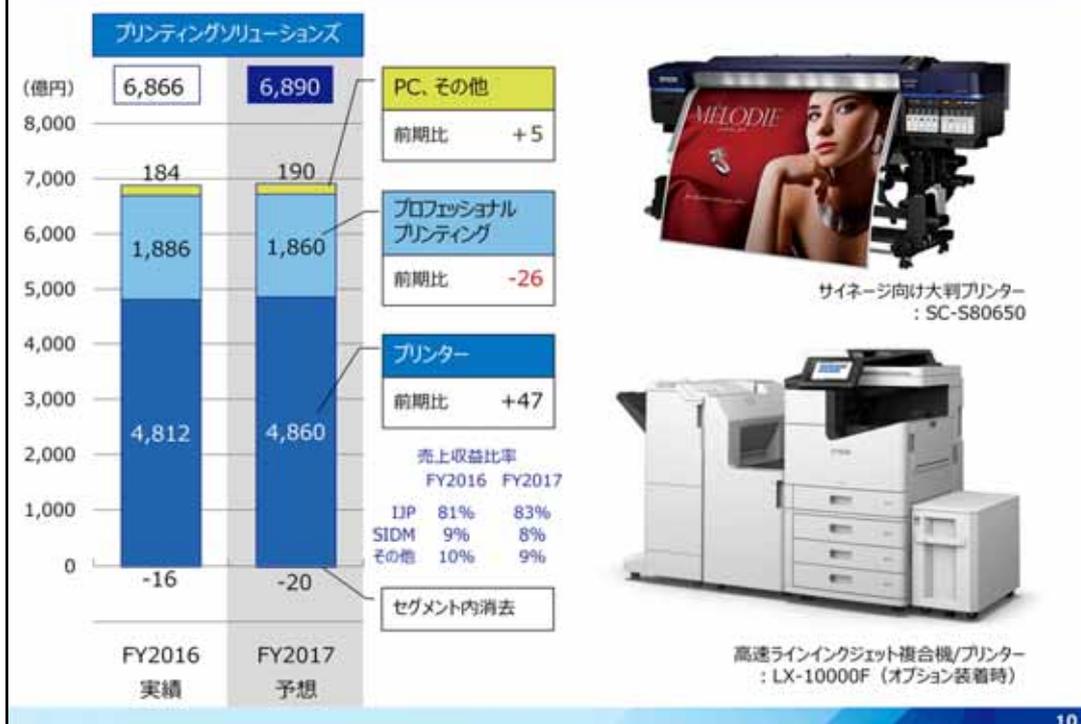
- 続いて、2017年度の業績予想は、ご覧のとおりです。
- 売上収益は、前期比 51億円 増収の 1兆300億円、
事業利益は、 11億円 増益の 670億円、
当期利益は、 5億円 増益の 490億円 を見込みます。
- 為替前提は、今後の変動リスクを勘案し、
USDは 105円、ユーロは 110円 としました。
- その他の通貨は、おおむねUSDと連動した前提で設定いたしました。
- なお、年間の為替感応度について、2017年度予想に基づき見直した結果、
事業利益の1円の円高影響額は、
USDが 4億円のプラス影響、EURが 10億円のマイナス影響、
その他通貨は、全ての通貨が1%の円高の場合、
11億円 のマイナス影響を予想します。



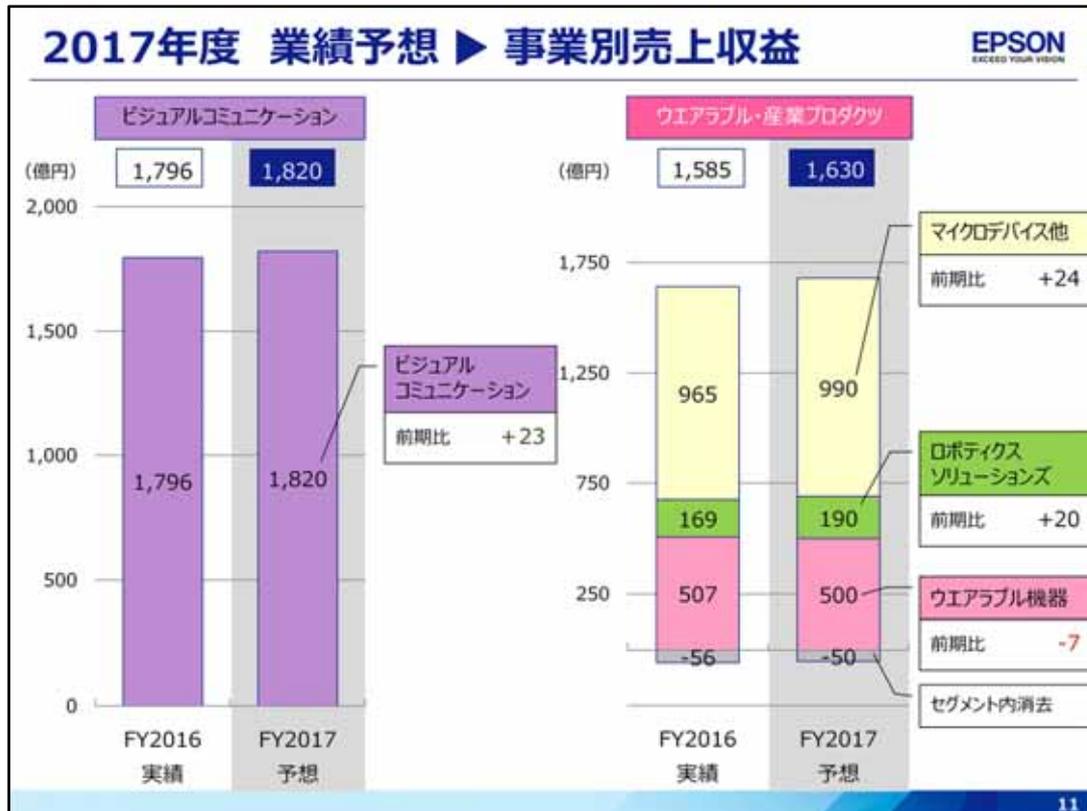
- こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別の内訳です。
- 各セグメントとも、増収・増益を計画しています。
- なお、全社費用・調整額が2016年度に対し 102億円の費用増となっておりますが、これは、全社費用セグメントで発生する特許料収入の減少や、販売プロモーション費用の増加などを見込んでいることに加え、従来、各セグメントに配賦していた一部の知的財産に関する費用を全社費用セグメントに計上することとした影響が含まれています。
- 知財費用の計上方法の変更による影響は、全社費用・調整額の増加 102億円のうち、6割程度となります。また、各事業セグメントにおける影響額は、プリンティングソリューションズが、計上先を変更した知財費用の6割程度、ビジュアルコミュニケーション、ウェアラブル・産業プロダクツは、それぞれ2割程度です。

2017年度 業績予想 ▶ 事業別売上収益

EPSON
EXCEED YOUR VISION



- こちらは、プリンティングソリューションズの各事業の売上収益予想です。
- プリンター事業は、大容量インクタンクモデルで競合他社による価格プロモーションのリスクや、SIDMで市場が緩やかに減少する影響を織り込むものの、安定したインク収益をベースに、大容量インクタンクモデルの着実な数量拡大や将来の成長を担う高速ラインインクジェット複合機の販売開始など、オフィスプリントをレーザープリンターから置き換える取り組みを着実に進めてまいります。
- プロフェッショナルプリンティングは、フォト・グラフィックスなどの既存分野で安定した推移を見込むとともに、サインージ、テキスタイル、ラベルなどの新規分野での成長をめざします。



- こちらは、ビジュアルコミュニケーションとウェアラブル・産業プロダクツの各事業の売上収益予想です。
- ビジュアルコミュニケーションは、高光束、超/短焦点などの高付加価値商品をはじめ、市場からの高い信頼を背景とした販売力により、着実な数量成長と平均販売単価の上昇を目指します。
- ウェアラブル機器では、オリエントやセンシング領域なども含め、個性あふれる商品群を提供することで着実な成長を実現します。
- ロボティクスソリューションズは、スマートフォンなどの電子機器、自動車部品、食品など、幅広い用途で需要増加が見込まれるなか、商品ラインアップおよびソリューション提案力の強化を図ることで、さらなる成長を実現します。
- マイクロデバイス他では、水晶、半導体など、安定した需要をベースに、着実な数量増を見込みます。

■ Epson 25 第1期中期経営計画 に沿って確実に前進

● 2016年度 初年度として着実な成果

- ✓ 戦略商品の拡大継続
- ✓ 新規分野の開拓進展
- ✓ 将来成長を担う
戦略商品の開発が進展
- ✓ 事業基盤の強化



オフィス製紙機「PaperLab A-8000」

● 2017年度 戦略を進展させ、ビジョン実現に向けた 成長基盤を創り上げる

12

- ここで、Epson 25 第1期中期経営計画の進捗についてご説明します。
- エプソンは、昨年3月に発表した長期ビジョン「Epson 25」の実現に向けた取り組み「Epson 25 第1期中期経営計画」に沿って、確実に前進しています。
- 初年度である2016年度は、外部環境の変化、とりわけ為替変動により、業績に大きなマイナス影響を受けましたが、そのような中でも、戦略商品の拡大や新規分野の開拓を進展させると同時に、事業基盤も強化しました。
- 詳細はのちほどご説明しますが、これらの取り組みを継続、強化し、2017年度も、ビジョン実現に向け、成長の基盤をしっかりと創り上げてまいります。

中期経営計画の進捗<事業利益推移>

■ 戦略進展に伴い、収益性は着実に向上



※再計算：中期経営計画前提レートで再計算した事業利益額・事業利益率

- こちらのグラフは、この中期経営計画期間の事業利益の推移となります。2016年度実績および2017年度予想を中期経営計画の前提レートで再計算したうえで、業績水準に応じて変動する人件費などの影響も加味して、事業利益および事業利益率を示しています。
- ご覧の通り、為替影響を除けば、戦略の進展により、中期経営計画の目標値のひとつである、事業利益率8%の達成に向けて着実に進んでいることが確認できます。

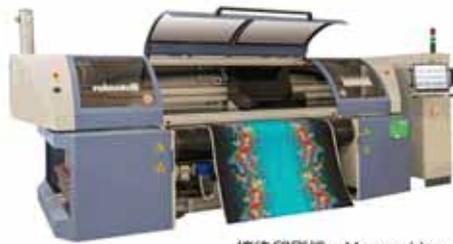
各事業の取り組み

	2016年度	2017年度
プリンター	大容量インクタンクモデル ・順調に拡大	・市場活性化 ・新商品投入による拡大継続
	高プリントボリュームユーザー獲得により、インク売上収益は安定継続	
	高速ラインインクジェット複合機 ・開発完了	・日本・海外での着実な販売 -販売体制整備 -オフィスにおける認知度向上
	オフィス製紙機「PaperLab」 ・販売開始	・需要に応える体制整備



- こちらは、プリンター事業での取り組みです。
- 大容量インクタンクモデルは、2016年度も順調に拡大し、インクジェットプリンター販売数量に占める割合が約40%となる600万台を超える水準まで成長しています。足元でも、新たな需要創出やローエンドレーザーからの置き換えなど、市場拡大は継続しており、2017年度も100万台以上を上乗せし、700万台を超える販売を見込んでいます。
- インクの売上収益も、これまで継続してきた、プリントボリュームの多いお客様に向けた展開強化の効果により、引き続き安定的な推移を見込んでいます。
- また、2016年度は、大規模オフィスのプリント需要についてレーザー方式からインクジェット方式への置き換えを狙う高速ラインインクジェット複合機の開発が完了し、商品発表いたしました。
- 2017年度は、日本を皮切りに、欧米などでも販売を開始します。販売にあたっては、販売体制の整備や、認知度向上の取り組みなど、やるべきことは明確なため、しっかりと先を見据えて取り組んでまいります。
- オフィス製紙機「PaperLab」は、2016年度に販売を開始しました。足元の業績への貢献は限定的ですが、多くの引き合いをいただいておりますので、需要に応えるための生産体制の充実や、お客様サポート体制などの整備を継続してまいります。

	2016年度	2017年度
プロフェッショナル プリンティング	新規分野（サインージ・テキスタイル・ラベル）での販売が拡大 ロプステリ社（伊）完全子会社化 テキスタイル研究開発施設の整備	インクジェットの強みを生かし、商業・産業印刷のデジタル化を支える商品投入による新規分野の販売拡大
ビジュアル コミュニケーション	レーザー光源搭載高光束プロジェクター投入 3LCDの魅力訴求により 市場シェアはさらに伸長	高光束、超/短焦点分野の強化 豊富なラインアップと3LCDの強みを 生かした販売拡大



捺染印刷機：Monna Lisa



レーザー光源搭載高光束プロジェクター
：EB-L25000U

- プロフェッショナルプリンティングでは、サインージ・テキスタイル・ラベルなど新規分野向けの販売が拡大しています。
- 2016年度には、ロプステリ社の完全子会社化やイタリアにテキスタイルの研究開発施設を開設するなど、体制整備も進展させることができました。
- 2017年度も、インクジェットの強みを生かし、商業・産業印刷のデジタル化を支える商品投入により、新規分野の拡大に取り組んでまいります。
- ビジュアルコミュニケーションでは、プロジェクターが、軟調な市場環境の中でもエプソンは、着実な数量成長を継続しています。
- 2016年度は、レーザー光源を搭載した高光束プロジェクターの投入により、商品ラインナップをさらに強化するとともに、3LCDの魅力を訴求する活動の成果もあり、市場シェアを伸ばすことができました。
- 2017年度は、これらの取り組みを継続させてまいります。

	2016年度	2017年度
ウェアラブル機器	事業基盤の整備 ・オリエント時計の機能再編	ウオッチの基盤に先端技術を組み合わせ、個性豊かな商品を創出
ロボティクスソリューションズ	特長あるロボット・力覚センサーなどの投入による販売拡大	ソリューション提案力の強化とラインアップの充実により、需要拡大を捉え、着実に成長
マイクロデバイス他	安定した需要をベースに着実な販売につなげるとともに、完成品ビジネスのコアとなるデバイス・技術の開発を継続強化	



GPSランニングギア WristableGPS
: SF-850PS



小型6軸ロボット
: Nシリーズ



小型原子発振器
: AO6860LAN

- ウェアラブル機器では、市況の低迷により厳しい環境が継続しましたが、将来を見据えた取り組みを着実に進めてまいりました。
- エプソンには、創業以来培ってきた、優れたウオッチを生み出すための、さまざまな技術基盤があります。
- 2016年度は、オリエント時計を統合して、メカニカルウオッチも加え、事業基盤をさらに強化しました。
これに、センサーなどの先端技術を組み合わせ、エプソンにしかできない個性豊かな商品を創出してまいります。
- ロボティクスソリューションズは、小型6軸ロボットやスカラロボットに、さまざまなセンサー技術を加えることで、これまで以上に幅広い用途やお客様に使っていただけるようになりました。
- これからも、生産現場への導入を容易にするロボットの開発を進め、需要の拡大に応えることで、エプソンも成長してまいります。
- マイクロデバイス他は、水晶・半導体などで、安定した需要をベースに着実な販売につなげるとともに、完成品ビジネスのコアとなるデバイスや技術の開発を継続的に強化してまいります。

新分野拡大に向けた事業基盤の強化

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2016年度	2017年度
研究開発	高速ラインインクジェット複合機、 オフィス製紙機「PaperLab」、 レーザー光源搭載高光束プロジェ クター など	ビジョンを実現するコア技術と 新商品の創出
生産体制	成長を支える新工場の建設・稼働と既存工場の合理化・自動化 新工場稼働開始（インドネシア・ 秋田エプソン） ヘッド新工場建設開始（広丘）	新工場稼働開始（フィリピン）
販売体制	オフィス分野の販売・技術サポート人員の継続的増強 新分野における認知度向上のための取り組み	



インドネシアエプソン新工場



秋田エプソン新工場



広丘事業所新工場（完成予想図）
（2018年度稼働予定）

17

- こちらは、事業基盤強化の取り組みです。
- 研究開発では、先ほどご紹介した高速ラインインクジェット複合機の核となるヘッド技術の PrecisionCore など、ビジョンを実現するためのコア技術開発やそのコア技術を迅速に量産化できる生産技術などの開発に取り組めます。
- また、ソフトウェアの開発や、新しい技術やビジネスへのリサーチ活動も継続して取り組んでまいります。

- 生産体制の整備も大きく進展しています。
- 2016年度は、インドネシアのプリンター組立や、秋田エプソンのプリントヘッド組立の新工場が、稼働を開始しました。
- また、フィリピンでも、2017年度の稼働を目指して新工場の建設が進み、プリンターやプロジェクターの生産能力増強に向けた準備が進んでいます。
- さらに、PrecisionCoreの開発・製造能力強化のため、長野県の広丘事業所では、新たな工場の建設も進行中です。

- 販売体制は、オフィス分野の販売や技術サポート人員の増強を継続的に進めるとともに、新規分野における認知度向上のための取り組みも行ってまいります。

- 2016年度 通期決算
 - 2017年度 通期業績予想
 - 中期経営計画の進捗
-
- 2016年度 第4四半期決算詳細
 - 2017年度 主要経営指標
 - 株主還元

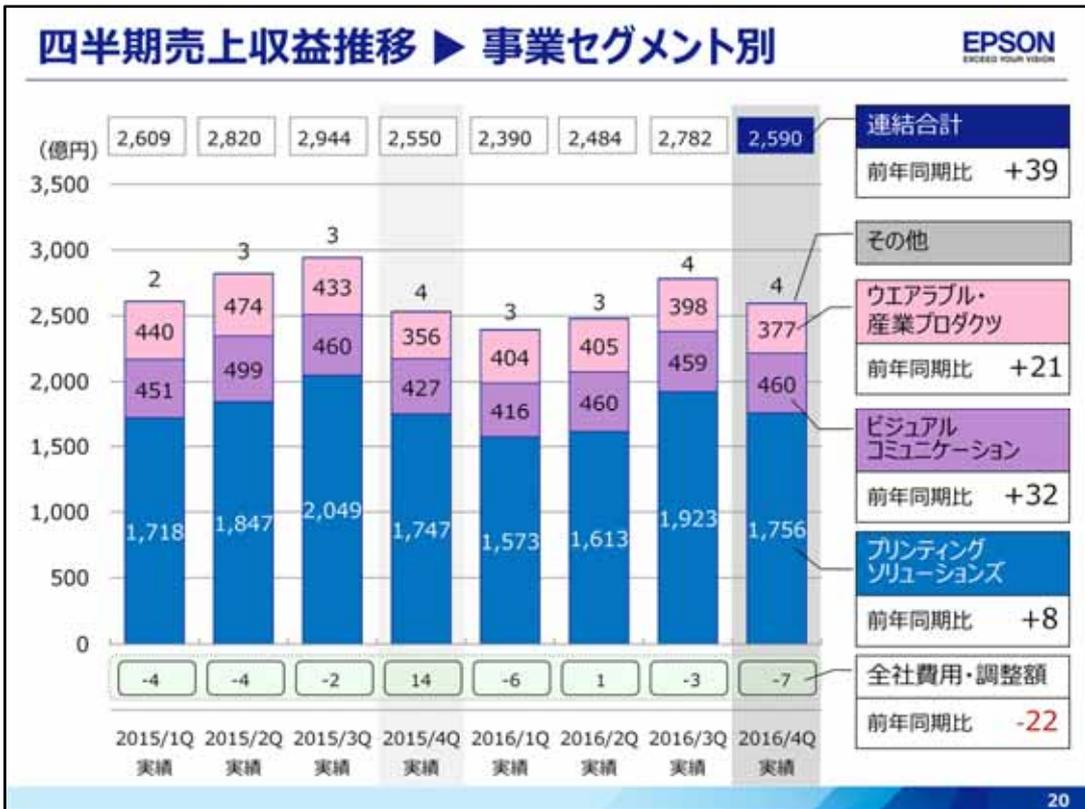
決算ハイライト（第4四半期）

(億円)	2015年度		2016年度		前年同期比		
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率	
売上収益	2,550	-	2,590	-	+39	+1.6%	
事業利益	121	4.8%	117	4.5%	-4	-3.7%	
営業利益	121	4.8%	105	4.1%	-15	-12.5%	
税引前四半期利益	112	4.4%	100	3.9%	-11	-10.1%	
四半期利益	-91	-3.6%	13	0.5%	+105	-	
EPS*	-25.70 円		3.79 円				
換算 レート	USD	115.48 円	113.64 円		為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
					USD	△13	+2
					EUR	△22	△15
					その他通貨	△9	+7
					合計	△44	△6

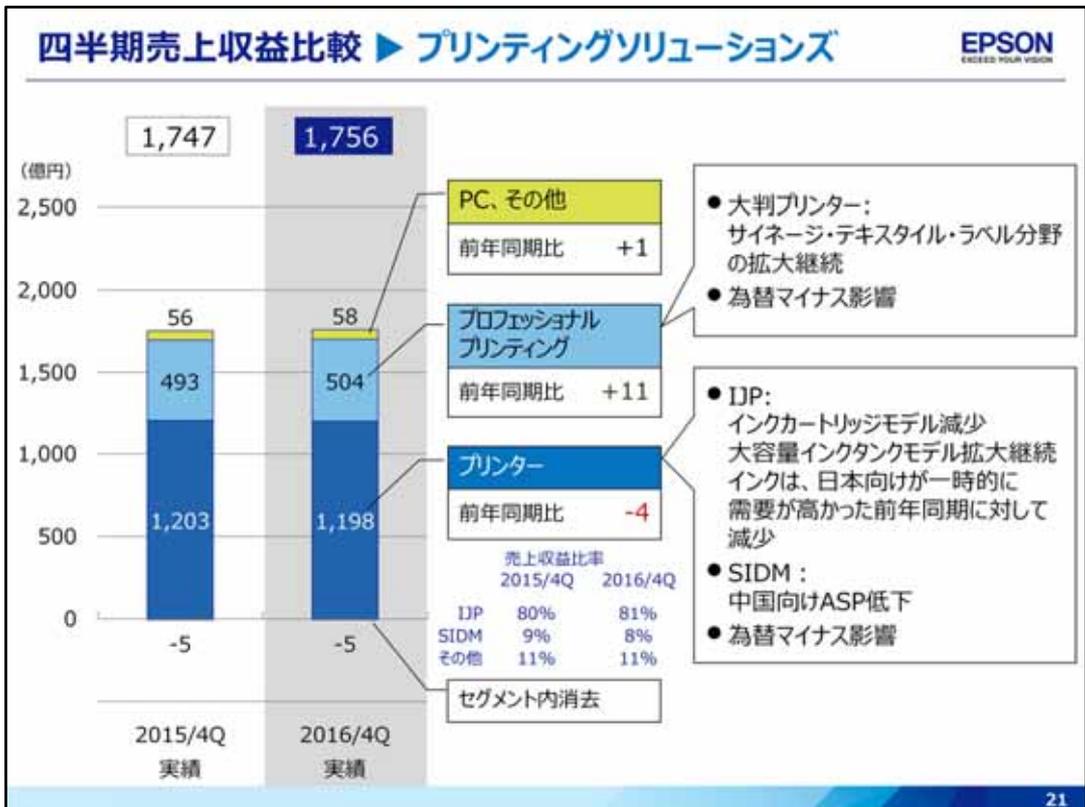
* 基本的1株当たり四半期利益

19

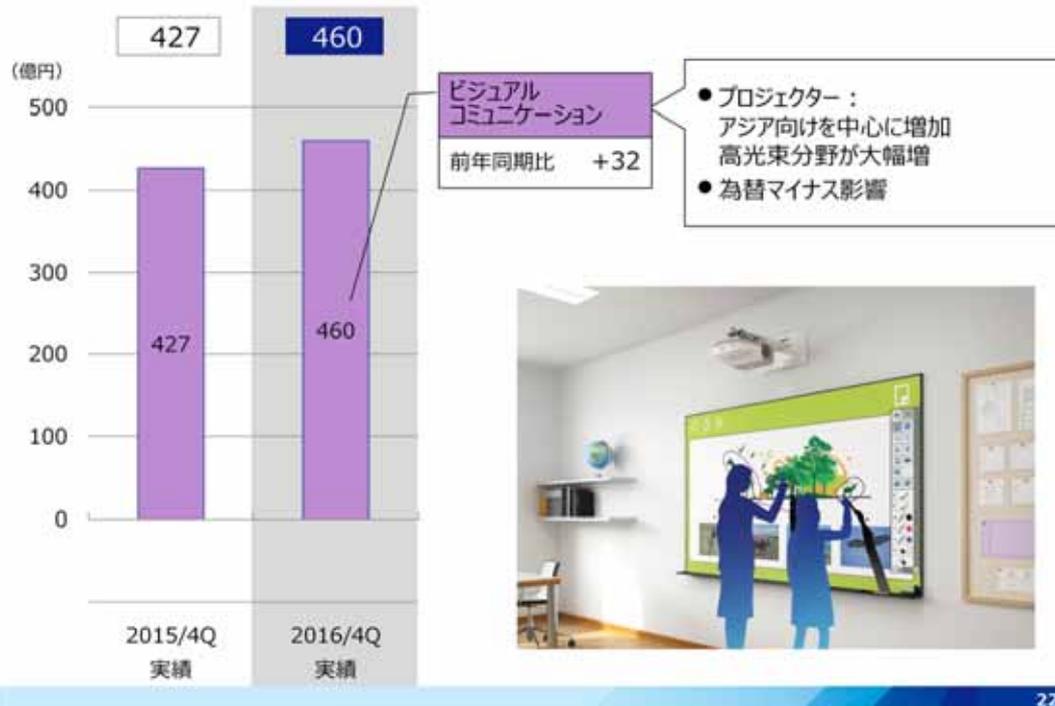
- 2016年度 第4四半期決算の詳細をご説明いたします。
- 売上収益は、前年同期比 39億円 増収の 2,590億円、事業利益は、4億円 減益の 117億円、四半期利益は、13億円となりました。
- なお、四半期利益の増額の要因は、前年同期に繰延税金資産の取り崩しによる税金費用を計上していることによります。
- 当四半期の為替変動による影響額は、売上収益で 44億円、事業利益で 6億円 のマイナス影響となりました。



➤ 事業セグメント別の 四半期 売上収益推移は、ご覧のとおりです。



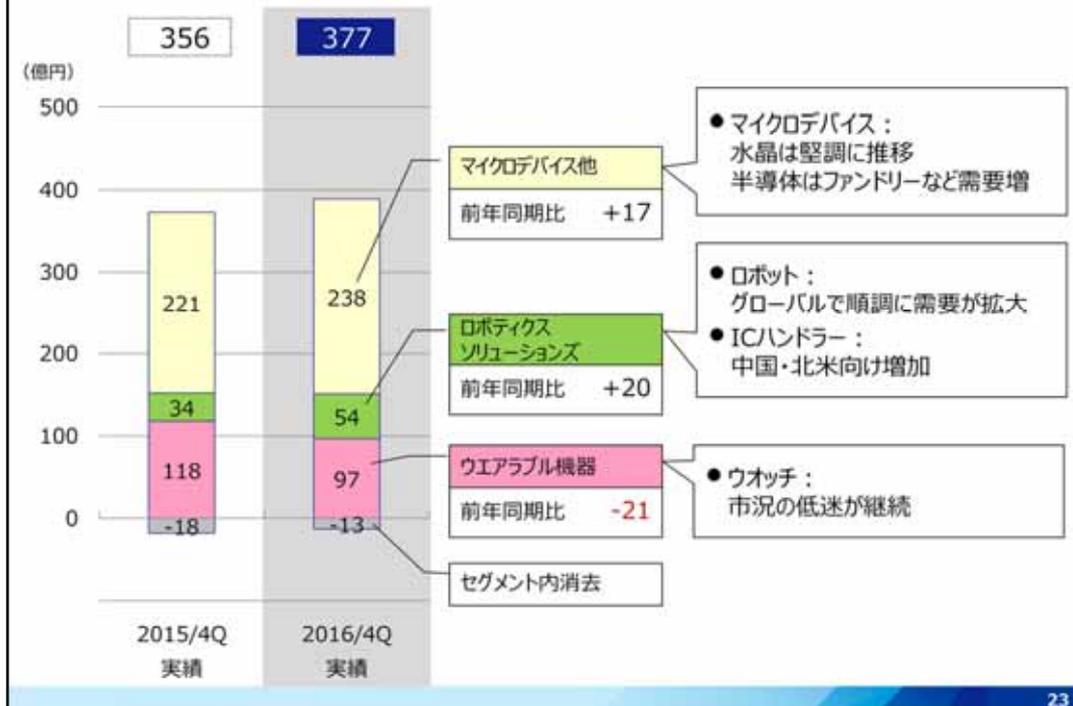
- プリンティングソリューションズの前年同期との比較は、ご覧のとおりです。
- プリンター事業では、インクジェットプリンター本体は、軟調な市場環境が続く北米において、競合他社の価格プロモーションの影響を受け、インクカートリッジモデル販売数量が減少したものの、大容量インクタンクモデルが、新興国を中心に、順調に拡大したことで、売上収益が増加しました。
- インクの売上収益は、日本向けが、価格改定に伴う一時的な需要増があった前年同期に対して、減少した影響を受けました。
- ただし、通期では、為替を除いて前期の水準を維持しました。
- SIDMは、第3四半期まで増減の激しかった中国向けが、販売数量は安定しつつあるものの、競合他社の価格プロモーションの影響を受けました。
- 以上に加え、為替のマイナス影響がありましたが、プリンター事業全体では、前年並みとなりました。
- プロフェッショナルプリンティングでは、大判プリンターにおいて、サイネージ、テキスタイル、ラベルなどの新規分野で順調な拡大が続いたことで、事業全体で前年を上回りました。



- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターで、アジアを中心に、高光束・超/短焦点など高付加価値モデルやスタンダードモデルで、販売数量を増加させることができました。
- 特に、高光束プロジェクターは、レーザー光源搭載モデルの効果により、販売が前年同期に対し大きく伸長し、売上収益の増加にも貢献しました。

四半期売上収益比較 ▶ ウエアラブル・産業プロダクツ

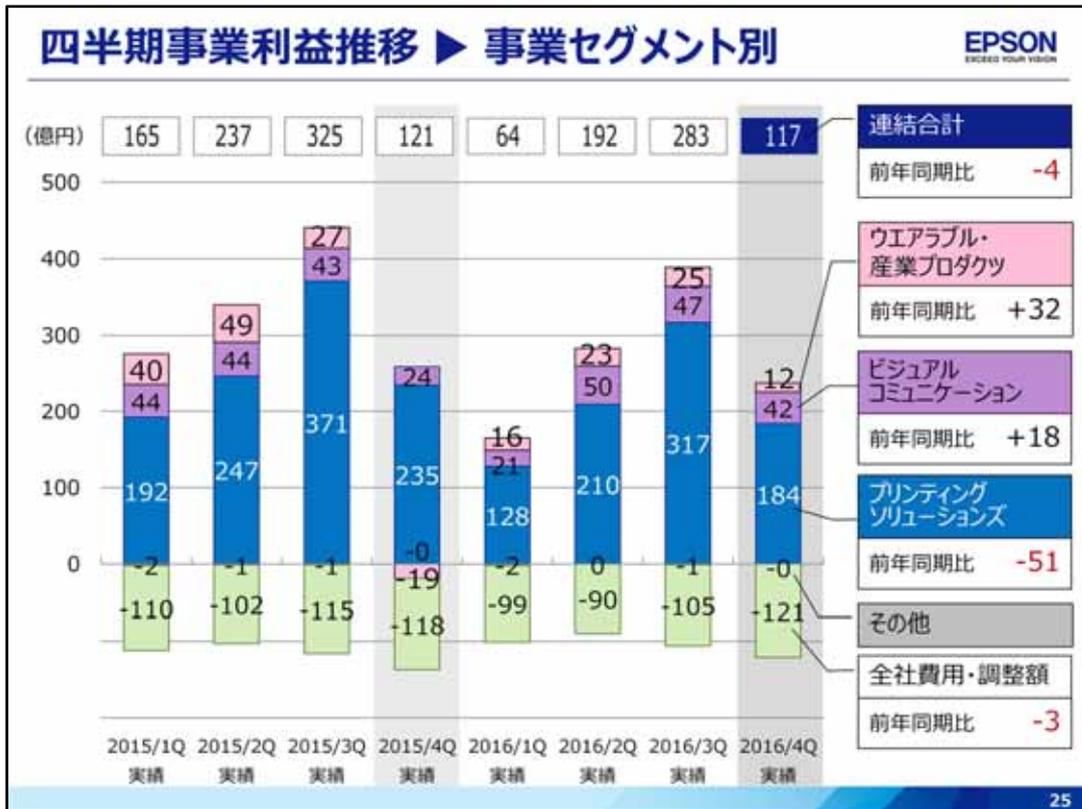
EPSON
EXCEED YOUR VISION



- 続いて、ウェアラブル・産業プロダクツです。
- ウエアラブル機器は、ウォッチ市況の低迷が継続しました。
- ロボティクスソリューションズでは、中華圏や欧米で、モバイル機器の組立用途、電子部品、自動車部品など、ロボット需要が順調に拡大したことに加え、ハンドラーも増加したことで、前年同期を大幅に上回りました。
- マイクロデバイス他は、水晶が、各分野とも堅調に推移し、半導体が、ファンドリービジネスや社内の完成品事業向けが好調に推移したことで、前年同期を上回りました。

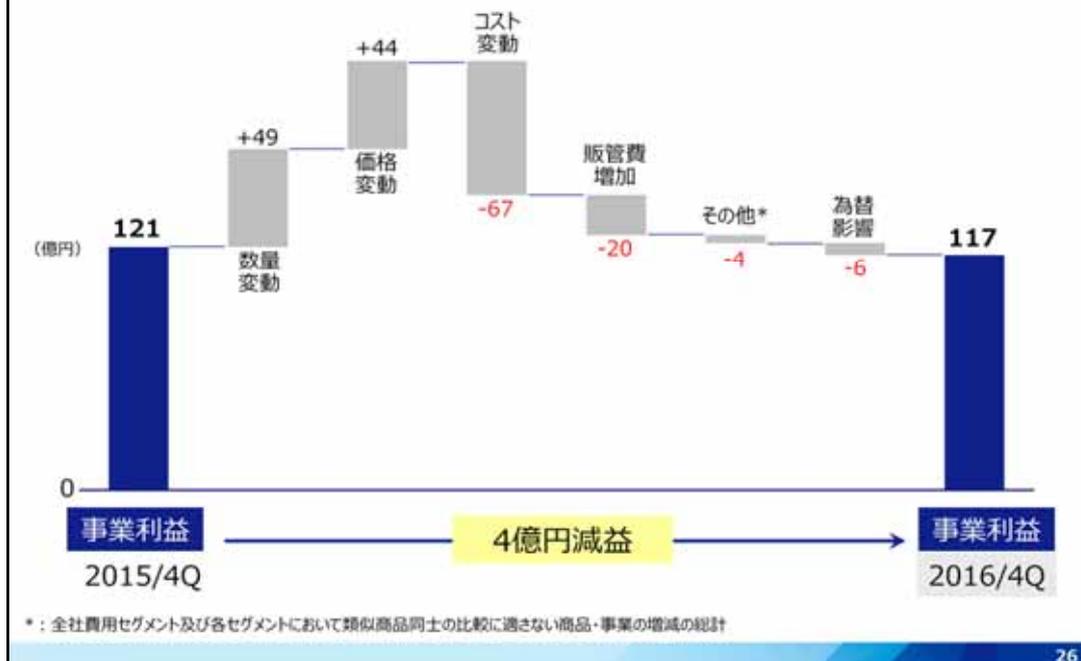


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧の通りです。
- 第4四半期の前年同期との比較では、販売体制整備などに伴う人件費の増加がありましたが、為替の円高の影響により、前年同期並みとなりました。



- 事業セグメント別の 四半期 事業利益推移は、ご覧のとおりです。第4四半期は、連結合計で前年同期並みの 117億円となりました。
- プリンティングソリューションズは、プリンター事業で、SIDMの減収影響に加え、インクカートリッジモデル本体の生産投入数量が、絞り込みを行った前年同期に対して増加した影響などがありました。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターが、数量の増加に加え、高光束分野の拡大による、モデルミックス改善効果などにより大幅な増益となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、ロボティクスソリューションズやマイクロデバイス他の増収効果に加え、ウェアラブル機器での費用削減などにより、黒字転換となりました。
- なお、1月31日に開示した2016年度業績予想に対しては、売上収益・事業利益ともに、為替のプラス影響などがあり予想を上回りました。
- プリンティングソリューションズでは、為替の影響があったものの、プリンター事業で、インクカートリッジモデルの販売数量が、北米・西欧を中心に競合プロモーションの影響により減少したこと、大容量インクタンクモデル、および、インク売上収益が計画に対し若干未達となったこと、プロフェッショナルプリンティングで、テキスタイル分野が計画未達となったことなどから、売上収益、事業利益は予想を下回りました。
- ビジュアルコミュニケーションでは、販売が好調に推移し、為替の影響もあり、売上収益、事業利益は予想を上回りました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、売上収益が、事業により強弱はありますが、概ね予想通り推移し、事業利益は、ウェアラブル機器における費用削減などにより、予想を上回りました。

第4四半期 事業利益増減要因分析



- 事業利益の前年同期比 減益額4億円の要因分解は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、
家庭向けからオフィス向けへミックス変動が進行している
インクジェットプリンターのインクの減少などがありました。が、
大容量インクタンクモデル、大判プリンター、プロジェクター、ロボット、
マイクロデバイスなど、多くの商品でプラス効果がありました。
- 価格変動は、
半導体やウオッチなどで、
商品ミックス変動に伴うマイナス影響などがありました。が、
インクジェットプリンターのインクのミックス変動や
プロジェクターにおける高光束モデルの増加などによる、
平均販売単価の上昇がありました。
- コスト変動は、
コスト削減のプラス効果があるものの、
インクカートリッジモデル本体の前年同期に対する生産投入数量の増加や
高付加価値商品の販売増加に伴う一台あたりのコストの増加などがありました。
- 販管費の増加は、販売体制の強化などによるものです。

財政状態計算書主要項目推移

EPSON
EXCEED YOUR VISION



- 財政状態計算書の主要項目についてご説明します。
- 資産合計は、有形固定資産および無形資産などの増加があり、前期末に対して330億円増加し、9,743億円となりました。
- 棚卸資産は、前期末に対して69億円増加し、2,085億円となりました。

財政状態計算書主要項目推移

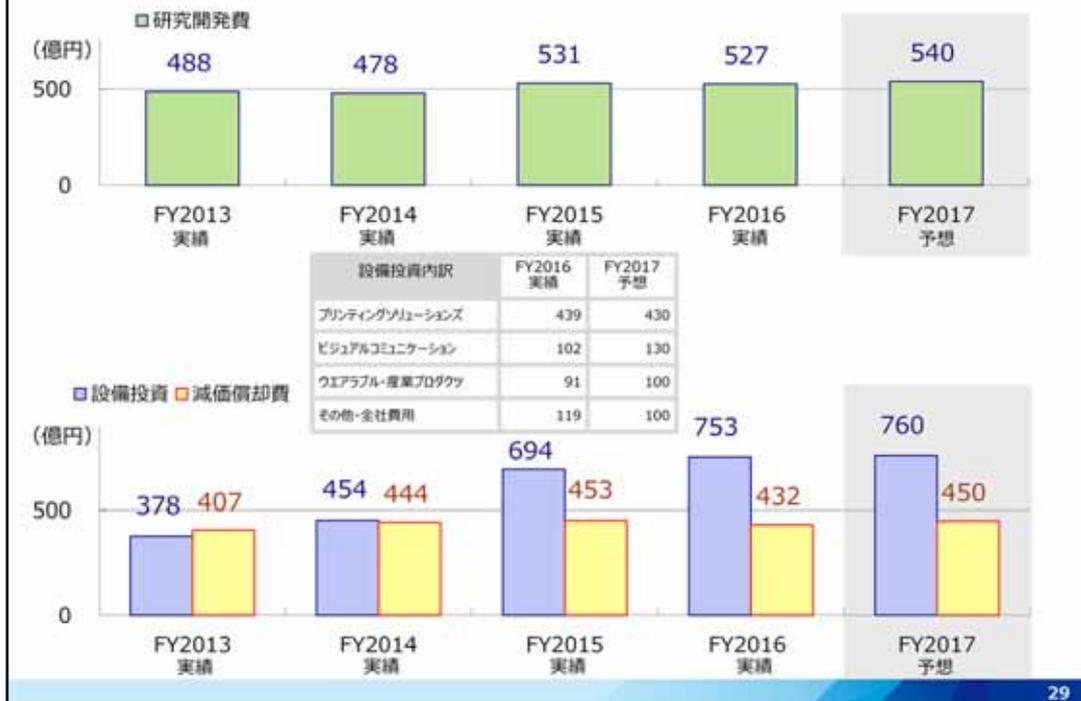
EPSON
EXCEED YOUR VISION



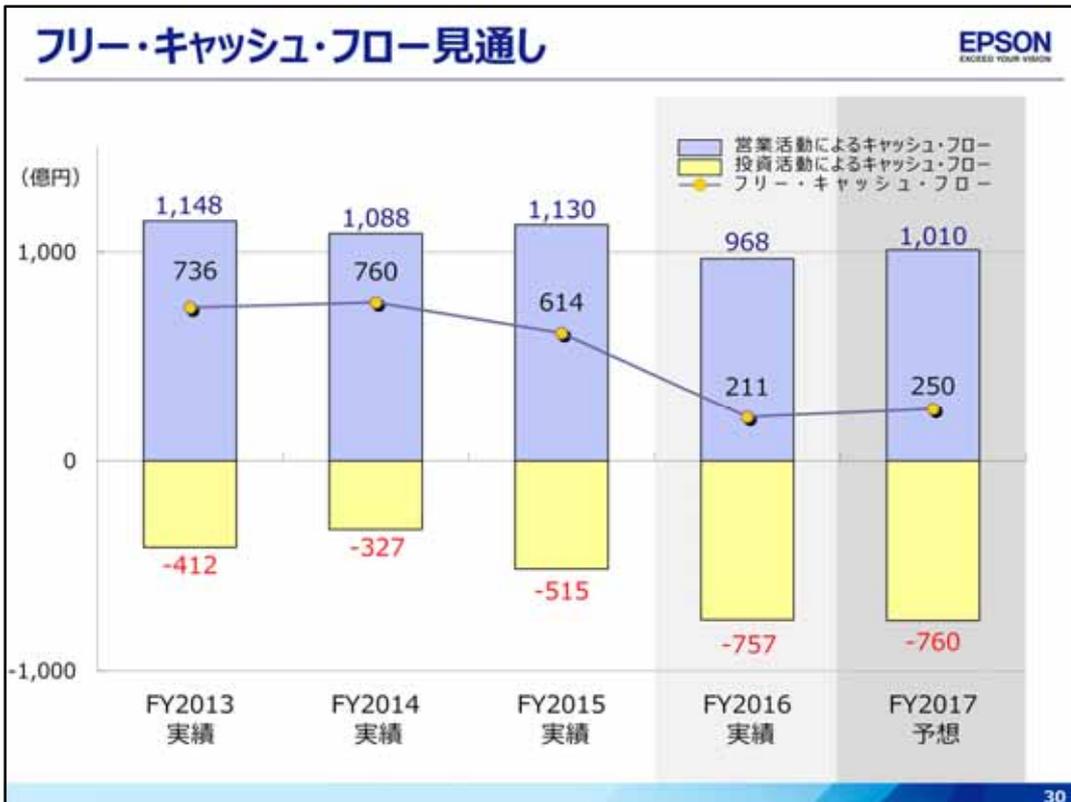
28

- 有利子負債は、短期借入金の返済を進めた一方で、償還を上回る社債発行を実施したことなどにより、前期末に対して48億円増加の、1,465億円となり、資産合計の有利子負債依存度は15.0%となりました。
- ネットキャッシュは、752億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、主に、配当金や自己株式の取得による支払いを実施した一方、利益剰余金が当期利益の計上により増加したことで、前期末に対して243億円増加の4,921億円となり、親会社所有者帰属持分比率は、50.5%となりました。

研究開発費/設備投資・減価償却費見通し



- 研究開発費、および設備投資の実績と予想はご覧のとおりです。
- 2017年度も、引き続き高い水準で戦略的な費用投入や投資を実施します。



- 2017年度のキャッシュ・フローは、
 営業活動によるキャッシュ・フローが、1,010億円、
 投資活動によるキャッシュ・フローが、760億円、
 その結果、フリー・キャッシュ・フローは、250億円を予想します。

主な経営指標の推移



- 以上の業績予想に基づく2017年度の主な経営指標は、
ROSが 6.5%
ROAが 6.8%
ROEが 9.7% となります。

株主還元

- 成長戦略に基づく投資を最優先に行ったうえで、経営環境の変化などに耐え得る強固な財務構造の構築と積極的な利益還元に並行して取り組む
- 中期的には連結配当性向^{*1}140%程度を目標としたうえで、株価水準や資金の状況などを総合的に勘案し、必要に応じて機動的に自己株式の取得を行い、より積極的な株主還元を図る

■ 配当実績・予想

1株当たり配当金額の推移（円）^{*2}



^{*1}: 当社の本業による利益を示す事業利益（日本基準の営業利益とほぼ同じ概念の利益）から法定実効税率相当額を控除した利益に基づく
^{*2}: 当社は2015年4月1日に1:2の株式分割を実施しました。グラフの高さは分割後の水準で表示しています

- 最後に、株主のみなさまへの利益還元についてご説明します。
- ご覧の通り、株主還元の基本方針と中期的な目標は中期経営計画で示した内容から変更ありません。
- 2016年度の配当につきましては、各事業における基本戦略の進捗などにより、通期業績が従来 of 予想に即した結果となったことから、年間配当は期初予想どおり1株当たり60円とさせていただきます。
- また、2017年度の配当につきましては、2016年度と同額の1株当たり年間60円の予想です。

補足資料

主な業績指標

EPSON
EXCEED YOUR VISION

(億円)					(億円)			
		FY2016 実績	FY2017 予想	FY2018 目標	項目	FY2016 実績	FY2017 予想	Epson 25 第1期累計
プリンティング ソリューションズ	売上収益	6,866	6,890	8,050	営業CF	968	1,010	3,300程度
	事業利益	841	900	-	FCF	211	250	1,200程度
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	1,796	1,820	2,000	設備投資	753	760	2,100程度
	事業利益	161	180	-	研究開発費	527	540	積極的に投下
ウェアラブル・ 産業プロダクツ	売上収益	1,585	1,630	1,950	為替前提			
	事業利益	78	120	-		FY2016 実績	FY2017 予想	Epson 25 第1期中期
その他	売上収益	15	10	0	USD	¥108.38	¥105.00	¥115.00
	事業利益	△4	△10	-	EUR	¥118.79	¥110.00	¥125.00
全社・調整額	売上収益	△15	△50	0				
	事業利益	△417	△520	-				
連結合計	売上収益	10,248	10,300	12,000				
	事業利益	658	670	960				
	ROS	6.4%	6.5%	8%				
	ROE	10.1%	9.7%	継続的に 10%以上				

主要商品の販売動向

■ 実績および予想（前年同期比）

ASP,売上収益は日本円換算後

商品		FY2015 通期(実績)	FY2016 1Q(実績)	FY2016 2Q(実績)	FY2016 3Q(実績)	FY2016 4Q(実績)	FY2016 通期(実績)	FY2017 通期(予想)
DIP 本体	数量	+1%	+8%	+5%	+2%	+7%	+5%	+8%
	数量構成比 オフィス/大容量	約20%/ 約35%	-	-	-	-	約20%/ 約40%	約20%/ 約45%
	ASP	+1桁%台前半	-10%程度	-10%台半ば	-1桁%台前半	+1桁%台前半	-1桁%台後半	+1桁%台前半
	売上収益	+1桁%台前半	-1桁%台前半	-10%台前半	前期並み	+1桁%台後半	-1桁%台前半	+1桁%台後半
DIP インク	数量	0%	-3%	-7%	-2%	-5%	-4%	-
	ASP	+1桁%台半ば	-1桁%台前半	-1桁%台後半	-1桁%台前半	+1桁%台半ば	-1桁%台前半	-
	売上収益	+1桁%台半ば	-1桁%台半ば	-10%台半ば	-1桁%台半ば	-1桁%台前半	-1桁%台半ば	-1桁%台半ば
SIDM 本体	数量	-6%	+19%	+10%	-13%	-1%	+4%	-11%
	ASP	+1桁%台前半	-20%台半ば	-20%台半ば	-10%台半ば	-1桁%台後半	-10%台後半	-1桁%台半ば
	売上収益	-1桁%台前半	-10%程度	-10%台後半	-20%台後半	-1桁%台後半	-10%台半ば	-10%台半ば
プロジェクター	数量	+2%	+9%	+8%	+7%	+2%	+6%	+2%
	ASP	+1桁%台前半	-10%台半ば	-10%台半ば	-1桁%台後半	+1桁%台半ば	-1%台後半	-1桁%台前半
	売上収益	+1桁%台半ば	-1桁%台後半	-1桁%台後半	前期並み	+1桁%台後半	-1桁%台前半	前期並み

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。

